

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
文学・文化学Ⅱ	全学科選択	2・4・6・8	2	高橋秀晴
授業の目標	<p>日本文化の特質を概括した上で、それぞれの地方に固有の美や価値観について、風土論の立場から考察する。なお、具体的到達点としては、以下の三点を想定している。</p> <p>(1) 日本文化の基本的傾向について理解できる。</p> <p>(2) 東北・秋田の風土と文化の関わりについて指摘できる。</p> <p>(3) 自分の出身地の文化的風土性について理解できる。</p>			
授業の概要・計画	<p>第1週 オリエンテーション① 文化学とは何か、及び、教科書、講義・演習形態、評価等について説明する。</p> <p>第2週 オリエンテーション② 日本文化の特質について概説する。</p> <p>第3週 東北地方の文化的・風土的特質を概観する。</p> <p>第4週 秋田県の文化的・風土的特質を概観する。</p> <p>第5週 小林多喜二の文学史的意義について考察する。</p> <p>第6週 プロレタリア文学活動と風土性との関係性について考察する。</p> <p>第7週 伊藤永之介が農民文学に接近した経緯について考察する。</p> <p>第8週 松田解子の生い立ちについて考察する。</p> <p>第9週 政治と文学の関わりについて考察する。</p> <p>第10週 石川達三と秋田時代について考察する。</p> <p>第11週 矢田津世子における五城目町の意味を考察する。</p> <p>第12週 千葉治平の故郷観について考察する。</p> <p>第13週 高井有一の角館観の変遷について考察する。</p> <p>第14週 風土と文化の関わりについて考察する。</p> <p>第15週 期末試験（筆記用具持参のこと）</p>			
成績評価の方法	<p>○試験（またはレポート）・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>○開講時に指定する。</p>			
履修上の留意点	<p>○対象とした作家・作品について発表し合うという演習形式を採る。</p>			
備考	<p>○講義外の幅広い読書・思索活動を強く期待する。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
文学・文化学Ⅲ	全学科選択	2・4・6・8	2	高橋秀晴
授業の目標	<p>資料の検索方法、原稿用紙の使い方、レポート・論文の基礎的ルールの確認等を通じて、文書作成の手順を理解し、文章表現力をつける。また、スピーチを通じて、音声言語表現能力を高めると共に、問題意識の涵養に努める。具体的な到達点は以下の三点。</p> <p>(1) 作文の基本ルールに基づいた文章作成をすることができる。</p> <p>(2) 個性豊かな表現をすることができる。</p> <p>(3) 現代的テーマに関する自分なりの見解を持つことができる。</p>			
授業の概要・計画	<p>第1週 オリエンテーション① 表現行為、及び、教科書、講義形態、評価について説明する。</p> <p>第2週 オリエンテーション② 表現方略としての意味マップ法について説明する。</p> <p>第3週 自己紹介という形式で自己表現する。</p> <p>第4週 「高校生の私へ」というテーマで文章を書き、自己認識の手がかりとする。</p> <p>第5週 テーマの設定方法について、具体的事例を使って説明する。</p> <p>第6週 テーマに基づいて調査を進める方法について説明する。</p> <p>第7週 調査内容や収集材料を如何にしてまとめるか説明する。</p> <p>第8週 討論の意味と方法について説明する。</p> <p>第9週 手紙文の形式について説明する。</p> <p>第10週 手紙文の内容について説明する。また、特定の相手を想定した手紙文を書く。</p> <p>第11週 実験ノートの作成方法について説明する。</p> <p>第12週 実験レポートの作成方法について説明する。</p> <p>第13週 論文の執筆に関する基本的事項について説明する。</p> <p>第14週 パーソナルコンピュータの利用方法の可能性について説明する。</p> <p>第15週 表現行為の意義について、実作体験を振り返りつつまとめる。</p>			
成績評価の方法	<p>○レポート・発表・出席状況等によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>○開講時に指定する。</p>			
履修上の留意点	<p>○全員にスピーチと1,200字程度の小論文(数回)を課す。</p>			
備考	<p>○添削等の都合上、履修希望者多数の場合は上級生を優先する。</p> <p>○講義外の幅広い表現・思索活動を強く期待する。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名																																													
哲学・倫理学Ⅰ	全学科選択	1～8	2	紺野 祐																																													
授業の目標	<p>「《人間の本性》を考える」</p> <p>本講義では、現代の多様な経験科学から人間理解に関する諸知見を参照しつつ、人間学／人間科学の立場から「人間とは何か」を検討する。その過程で以下の目標の実現が期待される。</p> <p>①人間理解の思想史から、内容的・方法的な課題を探索する。</p> <p>②人間理解の基礎的な枠組みとして、ダーウィン主義進化理論を概観する。</p> <p>③重層的・輻輳的な人間行動の諸側面を、その進化的な起源をもとに理解する。</p> <p>④以上の知見をもとに、人類の未来における可能性と困難を考察する。</p>																																																
授業の概要・計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本授業の目標と内容</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>はじめに</td> <td>人間に関する科学と哲学の現在</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>第1節 人間理解の視座</td> <td>人間理解の思想史(1) 技術知と理論知</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td></td> <td>人間理解の思想史(2) 「ソクラテスの転回」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td></td> <td>道徳・倫理の哲学(3) 《人間の本性》の重層性</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td></td> <td>道徳・倫理の哲学(4) 人間をめぐる「事実」と「価値」</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>第2節 進化論の基礎的理解</td> <td>生物をめぐる4つの「なぜ？」</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td></td> <td>ダーウィン主義進化理論の基礎的理解</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td></td> <td>ダーウィン主義進化理論の現代的理解</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>第3節 《人間の本性》の進化</td> <td>人類の進化・概略</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td></td> <td>ヒトの「脳」の特性</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td></td> <td>ヒトの行動：遺伝か環境か</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td></td> <td>ヒトの発達：学習を中心に</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td></td> <td>ヒトの社会性：利他性と道徳・倫理</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>おわりに</td> <td>《人間の本性》と生命の未来</td> </tr> </table>				第1回	オリエンテーション	本授業の目標と内容	第2回	はじめに	人間に関する科学と哲学の現在	第3回	第1節 人間理解の視座	人間理解の思想史(1) 技術知と理論知	第4回		人間理解の思想史(2) 「ソクラテスの転回」	第5回		道徳・倫理の哲学(3) 《人間の本性》の重層性	第6回		道徳・倫理の哲学(4) 人間をめぐる「事実」と「価値」	第7回	第2節 進化論の基礎的理解	生物をめぐる4つの「なぜ？」	第8回		ダーウィン主義進化理論の基礎的理解	第9回		ダーウィン主義進化理論の現代的理解	第10回	第3節 《人間の本性》の進化	人類の進化・概略	第11回		ヒトの「脳」の特性	第12回		ヒトの行動：遺伝か環境か	第13回		ヒトの発達：学習を中心に	第14回		ヒトの社会性：利他性と道徳・倫理	第15回	おわりに	《人間の本性》と生命の未来
第1回	オリエンテーション	本授業の目標と内容																																															
第2回	はじめに	人間に関する科学と哲学の現在																																															
第3回	第1節 人間理解の視座	人間理解の思想史(1) 技術知と理論知																																															
第4回		人間理解の思想史(2) 「ソクラテスの転回」																																															
第5回		道徳・倫理の哲学(3) 《人間の本性》の重層性																																															
第6回		道徳・倫理の哲学(4) 人間をめぐる「事実」と「価値」																																															
第7回	第2節 進化論の基礎的理解	生物をめぐる4つの「なぜ？」																																															
第8回		ダーウィン主義進化理論の基礎的理解																																															
第9回		ダーウィン主義進化理論の現代的理解																																															
第10回	第3節 《人間の本性》の進化	人類の進化・概略																																															
第11回		ヒトの「脳」の特性																																															
第12回		ヒトの行動：遺伝か環境か																																															
第13回		ヒトの発達：学習を中心に																																															
第14回		ヒトの社会性：利他性と道徳・倫理																																															
第15回	おわりに	《人間の本性》と生命の未来																																															
成績評価の方法	<p>学期末のレポート、および授業期間中に課す2～3回程度の小レポート等により評価する。</p>																																																
テキスト・参考書等	<p>テキスト：指定しない。(毎回ハンドアウトを配布する。)</p> <p>参考書：授業内容にそくして適宜紹介する。</p>																																																
履修上の留意点	<p>「哲学・倫理学Ⅱ」で扱う内容は、科学的な人間理解を取り込んだ哲学の一例である。必要ないしは興味があれば、「哲学・倫理学Ⅱ」も受講してほしい。</p>																																																
備考	<p>授業期間中のレポート等に応えるため、内容を多少変更して講義する場合もある。</p> <p>平成20年度は第2・4・6・8セメスターで開講する。</p>																																																

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
心理学Ⅲ	全学科選択	1～8	2	田中平八
授業の目標	人間の日常的な行動と環境・空間の関係について、心理学的側面から探究した知見を紹介する。また、授業では、心理学実験や調査の実習も適宜加えて、心理学的評価の手法についても体験しておく。			
授業の概要・計画	<p>内容は、感覚・知覚心理学、比較心理学、環境心理学、社会心理学、人間工学など多岐の分野にわたる。</p> <p>主なトピックス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚された世界と地理的空間 ・感覚としての色・認識としての色 ・錯覚の世界 ・奥行き知覚と立体視 ・パーソナルスペースとなわばり ・スキルの形成とアクションスリップ ・環境としての社会と対人関係 ・感性と評価法 			
成績評価の方法	<p>学期末定期試験における論述の内容、および実験課題での小レポートによる。</p>			
テキスト・参考書等	<p>特に定めない。</p>			
履修上の留意点				
備考	<p>平成20年度は第2・4・6・8semesterで開講する。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
社会学Ⅲ	全学科選択	2・4・6・8	2	小松田儀貞
授業の目標	<p>「現代文化とアイデンティティのゆくえ」 文化は人間が作り、人間を作る。文化というプリズムを通して人間が現われ、社会が現れる。大量のモノと情報が満ちあふれる現代社会。この「自由で豊かな」社会の中で、人々はどのような「自己」(わたし)を生活しているのだろうか。 現代文化の諸相を概観しながら、高度産業化社会における労働、生活様式、消費などの問題を通して、「自由で豊かな」社会における人間の「生」の問題について理解を深める。</p>			
授業の概要・計画	<p>概要・計画と主なトピック</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文化と自然 <ul style="list-style-type: none"> ・文化とは何か ・自然化と社会化 ・エスノセントリズムの陥穽 2 産業化社会の秩序 <ul style="list-style-type: none"> ・合理化と規律化 ・フォーディズムと大量生産・大量消費社会 ・特殊文化の普遍化 3 大衆社会の病理と階層文化 <ul style="list-style-type: none"> ・アノミーと疎外 ・「自由からの逃走」と権威主義 ・消費と欲望、消費とアイデンティティ ・家庭文化と階層文化 4 資本制システムとグローバル化 <ul style="list-style-type: none"> ・普遍的合理化としてのマクドナルド化 ・グローバル化と対抗的文化の可能性 5 「私」と「世界」—— アイデンティティのゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ・自己のアイデンティティ、世界のリアリティ ・「私」の痛み、「世界」の痛み 			
<p>成績評価の方法 レポート等の課題による総合的評価。</p>				
<p>テキスト・参考書等 特に定めない。授業内で随時指示する。</p>				
<p>履修上の留意点 社会学ⅠもしくはⅡの既習が望ましい。</p>				
<p>備考</p>				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
総合科目Ⅱ 生活と情報	全学科選択	4・6・8	2	高橋秀晴、紺野 祐、田中平八 ○小松田儀貞、朴 元熙
授業の目標	「生活と情報」をテーマに、総合的な視野から物事にアプローチする見方を養うとともに、テーマに対する理解を深めることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>(概要) 「生活と情報」のテーマのもとに、人文・社会科学の教員がオムニバス方式で下記の授業を行う。</p> <p>(トピックス)</p> <p>A. 文字現象の中に含まれている情報について、具体例を見ながら分析する。(高橋)</p> <p>B. 人間が生活を営んでゆくなかで、膨大な情報がいかに・どのような理由から取捨選択されていくかを、認知哲学を中心とした視点から考察する。(紺野)</p> <p>C. TVを中心とするマスメディアからの情報が、個人の行動にどう影響を及ぼすのかを、心理学の立場から考えてみたい。具体的には商品のPRキャンペーンと購買意欲、暴力シーン・性的情報と実行行為などである。(田中)</p> <p>D. 情報の多様な社会的機能に注目するとともに、情報リテラシーの問題を通して、情報機能の限界と可能性について考察する。(小松田)</p> <p>E. 経済活動と情報との関わりについて学習し、現在迎えている情報化社会における情報システム活用の可能性について考える。(朴)</p>			
成績評価の方法	レポート。提出方法及び時期については、第1回目の授業並びに期末の掲示の中で指示する。			
テキスト・参考書等	テキストは指定しないが、参考書は各教員が適宜指示する。			
履修上の留意点	オムニバス形式の授業の詳細は、初回の授業において説明する。			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
CALL II	全学科必修	2	2	高橋 守、 檜山 晋 S. Shucart、 榎木 蘭鉄也
授業の目標	CALL Iを引き継いで、コミュニケーションの場と言語材料のレベルをさらに上げる。グローバルな話題を増し、聞き取り、反応し、さらに自己の考えを表現できるようにする。まとまった話題の読み取りも取り入れる。			
授業の概要・計画	1. Orientation (1-15回の授業は『J-Talk』を使用します) 2. Unit 1 Names 3. Unit 2 Kiss, Bow, or Shake Hands? 4. Unit 3 Prized Possessions 5. Unit 4 Cheers 6. Unit 5 What's the Occasion? 7. Unit 6 first Date 8. Mid-term test (1) 9. Unit 7 On the Job 10. Unit 8 A gift For Me 11. Unit 9 Feast On This 12. Unit 10 Looking Good 13. Unit 11 That's Shocking 14. Unit 12 Glued to the Tube 15. Mid-term test (2) 16. Unit 1 Identity (16-30回の授業は『Identity』を使用します) 17. Unit 2 Values 18. Unit 3 Culture Shock 19. Unit 4 Culture in Language 20. Unit 5 Body language and Customs 21. Unit 6 Individualism 22. Mid-term test (3) 23. Unit 7 Politeness 24. Unit 8 Communication Styles 25. Unit 9 Gender and Culture 26. Unit 10 Diversity 27. Unit 11 Social Change 28. Unit 12 Global Community 29. Final test 30. Evaluation			
成績評価の方法	出席状況、セメスター中に実施する中間試験、期末試験の結果、授業への参加度（授業毎の参加状況）により総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	テキスト：Kensaku Yoshida, Linda Lee, Steve Ziolkowski 著 『J-Talk』（CD付） Oxford大学出版局 2,561円 Joseph Shaules, Hiroko Tsujioka, Miyuki Iidai 著 『Identity』（CD付） Oxford大学出版局 2,561円			
履修上の留意点	テキストと辞書を必ず授業に持参すること。			
備考	各学科共通（各年度後期）			

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
総合英語 I	全学科必修	2	2	檜山 晋、榎木菌鉄也
授業の目標	科学技術分野の英語に慣れながら、英語の基本四技能（読む・書く・聴く・話す）の向上を目指す。			
授業の概要・計画	<p>教科書の各課の表題は以下の通り。教科書の扱い方、授業方針は開講時の担当教員の指示に従うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 1 My Robot 2. Unit 2 Veggie Factory 3. Unit 3 Talking Pen 4. Unit 4 Saving Face 5. Unit 5 The Quickest Cat! 6. Unit 6 Kids with Smart Cards 7. Unit 7 Stay Fit 8. Unit 8 Finally Here - E-paper! 9. Unit 9 Safe Numbers 10. Unit 10 High Tech Helper 11. Unit 11 No Time to Waste 12. Unit 12 Cool Technology 13. Unit 13 Da Vinci Heart 14. Unit 14 Scientists Ask "Why?" 			
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、課題の提出、小テスト・試験の結果等で総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：深山晶子・椋平淳・William Figoni（編著）『<i>First Steps to SciTech English Basic</i>（理工系学生のための英語入門：初級編）』 桐原書店 1,995円</p>			
履修上の留意点	テキストと辞書を持参すること。			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
英文講読Ⅱ	全学科選択	4	2	佐藤クリストファ
授業の目標	内容、言語材料ともにややレベルの高い教材を用いる。広く人文、社会、自然科学の分野から選ばれた評論文を正確な理解力をもって解釈できるようになることを目標とする。			
授業の概要・計画	<p>This reading course will use a variety of different texts, from holiday brochures to instruction manuals to dissertations to literature. In class students will work in pairs and groups on speed reading comprehension activities. The course grades will be determined by homework assignments and there will be no final examination.</p> <p>(このリーディングコースは、旅行パンフレットから説明書、論文から文学作品といった幅広い分野の教材を使用します。クラスでは、生徒はペア、もしくはグループでスピード読解力をつけるアクティビティを行います。コースでの各自の成績は、提出された宿題によって評価され、期末テストはありません。)</p>			
成績評価の方法	開講時に説明する			
テキスト・参考書等	開講時に説明する			
履修上の留意点	開講時に説明する			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講Semester	単位数	担当教員名
実用英語	全学科選択	4	2	Stephen Shucart
授業の目標	<p>社会に出てから役に立つビジネス英語やニュース英語を中心にする。平易な教材から高度な教材まで使用する。語彙増強を目指す。</p>			
授業の概要・計画	<p>This class will focus on contemporary business English. Students will learn valuable vocabulary and expressions that are used in business environments.</p>			
成績評価の方法	<p>Students will be evaluated by tests, attendance, and participation.</p>			
テキスト・参考書等	<p>Angela Buckingham, Norman Whitney著 『Passport to Work』 (Oxford University Press) 2,400円 ISBN 0-19-457364-8</p>			
履修上の留意点	<p>Students must bring a new English/Japanese dictionary to class.</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
実践英語 I	全学科選択	4	2	高橋 守
授業の目標	<p>実践的な英語力の習得を目指した授業を行う。バランスよく英語力をのばすことのできる教材を使用して、英語検定 2 級程度の英語能力試験にも対応できるようにする。</p>			
授業の概要・計画	<p>この授業の目的は、流暢さではなく、適切なコミュニケーション（思いを伝えたり受け取ったりすること）ができるようになることである。この授業では、実力を高めるための単語集の学習とトピックに基づいた色々な活動を行う事により、英語の運用能力を向上させる。</p> <p>予定している授業の主な活動内容は、次の通り。</p> <p>Day 1. Watching a Video ビデオを観て内容を理解する。</p> <p>Day 2. Practicing Note-taking ノートの取り方を知る。</p> <p>Day 3. Jigsaw Task 英語で短い話を読んで、クラスメートに話す。Group Discussion プレゼン用の原稿作製を行うためのグループディスカッションをする。</p> <p>Day 4. Watching a Video and Creating a Presentation 授業の前半では、ビデオを使用して学習を行い、後半ではグループ毎にプレゼンテーションの原稿を作製する。</p> <p>Day 5. Day 4 と同じ</p> <p>Day 6. Day 4 と同じ</p> <p>Day 7. Day 4 と同じ</p> <p>Day 8. Watching Sample Videos プレゼンのサンプルビデオを観る。</p> <p>Day 9. Making a Presentation プレゼンを行う。</p> <p>Day10. Day 9 と同じ</p> <p>Day11. Evaluation グループ毎のビデオを観て採点する。</p> <p>Day12. Day11 と同じ</p> <p>Day13. 復習</p> <p>Day14. 試験</p> <p>Day15. まとめ</p>			
成績評価の方法	<p>出席 (20%)、多読 (20%)、Day14の試験 (10%)、プレゼンテーション (30%)、宿題 (単語学習シートの提出20%)</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：『究極の英単語 SVL Vol. 3 上級の3000語』（アルク）1,890円</p>			
履修上の留意点				
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
保健体育	全学科選択	2・4	2	長澤吉則
授業の目標	<p>本授業では、健康・スポーツ科学の必要性、体力・健康の概念、運動・スポーツ実践の意義等を正しく理解し、その問題に対する解決の能力を高めるとともに、健康で安全な生活を営むのに必要な習慣、態度を養うことを目標とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>本授業では、健康、フィットネス基礎知識、運動・スポーツの実践、健康・スポーツと社会の4つを柱に、筋、呼吸循環機能、発育発達などの身体運動・スポーツに関する様々な科学的知識と実践方法について講義する。具体的には、健康の捉え方、運動のしくみ、トレーニング理論・方法、運動と水分補給、スポーツと心理のかかわり、社会におけるスポーツの役割等を講義する。必要に応じてトレーニングとコンディショニング、栄養補給、運動と食事等に関するビデオを用い、視覚的に理解できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の捉え方と獲得するためのポイント 2) 生活習慣病と関連する要因 2. フィットネス基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 体力とは何か、運動のしくみ 2) トレーニング理論・方法 3) 健康を維持・増進するための運動等 3. スポーツの実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動と水分補給、熱中症 2) ウォーミングアップとクーリングダウン 3) スポーツと心理のかかわり等 4. 健康・スポーツと社会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 欲求、ストレスと疲労への対処法 2) 社会におけるスポーツの役割等 			
成績評価の方法	<p>セメスター後に試験を実施し、レポート、出席状況から総合的に判断して評価する。評価の対象としない欠席（割合）条件は、1／3以上とする。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：出村慎一監修『健康・スポーツ科学講義』杏林書院、¥2,625 参考書：出村慎一・他4名編『テキスト保健体育』大修館書店、¥1,890 出村慎一・村瀬智彦『健康・スポーツ科学入門』大修館書店、¥2,100</p>			
履修上の留意点	<p>特になし。</p>			
備考	<p>特になし。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講semester	単位数	担当教員名
コンピュータリテラシーⅡ	全学科必修	2	2	陳 国躍、邱 建輝、林 偉民 高根昭一、猿田和樹、二村宗男
授業の目標	<p>第1 semesterで学んだ事柄を基礎に、より実用的に表計算や画像処理などの応用ソフトの利用法を習得する。</p> <p>実践的な、情報の加工、処理、発信などの情報処理能力を身に付ける。</p>			
授業の概要・計画	<p>本講義では、コンピュータ実習室の設備を活用し、情報機器に関する知識を学ぶとともに、演習を通して実際の利用法を習得する。また、文章の編集・管理などを行うツールの利用や電子メール、WWWなどのコンピュータネットワークの利用について知識と実際の利用法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトを用いた数値データ処理 ・デジタル画像技術の基礎 ・画像処理ソフトを用いた画像データ処理 ・プレゼンテーションソフトの利用法 ・WWWネットワークの基礎的知識と利用法 ・Webページの仕組みと注意点 ・プログラミングの基礎（C言語 または VBA） 			
成績評価の方法	<p>毎回の実習課題および最終試験の成績を総合して評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキストは講義で配布するプリントを使用する。参考書は授業あるいはテキスト内で適宜紹介する。</p>			
履修上の留意点	<p>必修科目であり、実際にコンピュータを使用する実習中心の講義であるため、内容が毎回レベルアップすることに注意すること。</p>			
備考	<p>後半はプログラミングを行うため、特に内容が難しくなる。講義内容に不明な点があれば積極的に教員に質問してほしい。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
環境科学	全学科必修	2	2	○松本真一、相馬隆雄
授業の目標	<p>環境問題や資源問題は人間の社会活動を含めた全体的なシステムとして理解し、モノづくりの体系の中に取り込んで考えること。これからのモノづくりにおいては、このようなとらえ方が必要である。</p> <p>新しいモノづくりの視点の基礎として、①様々なスケールの環境問題や資源問題の構図、②持続可能な社会の概念と環境倫理、③今後望まれる資源循環型社会システムの考え方を理解することを目標とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>I. 建築・都市と環境ー持続可能な社会を目指して（松本教授）</p> <p>今日の建築環境問題や都市環境汚染は、人間と自然環境の不調和がもたらす最大の問題のひとつであり、地球環境問題の縮図である。家庭生活や都市生活をとりまく環境問題の現状について概説した上で、地球環境問題と日常生活の関わり、その解決のために我々のできることを論じる。また、環境家計簿（ホームワーク）を通じ、環境問題の身近さを体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭生活と環境（1）ライフスタイルと環境負荷 2. 家庭生活と環境（2）建築と環境負荷、環境と健康 3. 家庭生活と環境（3）近未来の建築デザイン 4. 都市生活と環境（1）ヒートアイランドなどの都市環境問題 5. 都市生活と環境（2）問題解決のための技術的方策、環境共生都市 6. 地球環境問題（1）問題の所在と建築・都市との関係 7. 地球環境問題（2）問題の解決に向けて（価値・発想の転換と環境倫理） <p>II. リサイクル型社会システムの構築に向けて（相馬教授）</p> <p>資源が有限であることや、地球の自然浄化作用の限界をいかに克服するか大きな問題となっている。資源問題や環境問題の現状に対するマクロ的な理解を深め、今後必要とされるリサイクル型社会システムの構築の基本的な考え方や具体的な循環システム技術について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球を取り巻く環境の変遷 2. 地球温暖化と資源問題 3. 大気汚染／酸性雨と工場・自動車排ガス 4. オゾン層破壊、環境ホルモン 5. 地球環境対策の世界的動き 6. リサイクル型社会システムの展望 7. （レポート課題の実施） 			
成績評価の方法	<p>「授業の目標」に掲げた①～③の項目に関する理解度を、課題「環境家計簿」、最終回レポート課題の成果を通して評価する。受講態度（出席状況や宿題提出状況など）加味する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参考書：D・H・メドウズ他、茅陽一（監訳）『限界を超えて』、ダイヤモンド社、2,300円 資源環境技術総合研究所編『地球環境・エネルギー最前線』、『身近な環境問題最前線』、 『エコテクノロジー最前線』、森北出版 2,100円、2,310円、2,310円</p>			
履修上の留意点				
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
システム科学ⅡA	必修（機械）	2	2	杉本尚哉
授業の目標	システム分析や、システム設計に用いられる基本的な考え方や原理手法について解説する。「システム」とは、「多くの異なる要素がある目的を達成するために相互に関連し、全体では統一体としての機能を発揮するもの」であるが、この「システム」の設計、評価、統合に必要な具体的手法を通して、システムの数理解析に関する基礎を習得する。			
授業の概要・計画	<p>概要</p> <p>本講義では、主にシステム工学で用いられる数理解析手法の基礎について説明していく。初めにシステム工学が生まれた背景やその基本概念について述べた後、システム工学の代表的問題やその解析方法、システムの分析手法について、下に示す具体的項目を使って解説する。</p> <p>講義項目・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システム工学の基本概念：「システム」の概念、システム工学の源流について 2. システムの最適化：制約条件の下で目標を最大限達成するにはどうすればよいか？ 線形計画法、シンプレクス規範 動的計画法、最適性の原理 3. 待ち行列理論：システムに関係する要因が確率に支配されている場合について 窓口が1個の場合の待ち行列 窓口が複数の場合の待ち行列 4. システムの信頼性：システムの壊れにくさ、修理の容易さ、壊れたときの安全さについて 信頼性、保全性、安全性 5. 動的モデル解析：システムの数式モデルを解いて、その性質や挙動の時間変化を調べる 伝染病の伝播モデル 生態系モデル ランチェスタモデル 			
成績評価の方法	<p>期末に行う試験（100点満点）に、講義期間中の数回のレポートの成績（10点満点）を加味して成績評価を行う。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参考書：添田 喬、中溝高好 共著 『システム工学の講義と演習』 日新出版 2,100円 渡辺 茂、須賀雅夫 著 『新版 システム工学とは何か』 NHKブックス 966円</p>			
履修上の留意点	<p>解析学Ⅰ、確率・統計学、システム科学Ⅰを履修済であることが望ましい。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
システム科学ⅡB	必修（電子）	2	2	礒田陽次、阿部紘士
授業の目標	<p>本科目は「システム科学Ⅰ」（1セメスター、2単位）と「システム科学演習」（3セメスター、2単位）の間に位置するもので、ここでは、「システム科学Ⅰ」でのシステムの意味およびその基礎手法の理解を更に深めると共に、次の「システム科学演習」で具体的に演習する各種システム技法について理解する。関連事項として、科学技術者倫理の概要を学ぶ。</p>			
授業の概要・計画	<p>システムは、「多くの要素の集合体で、各要素が有機的に結合して、全体として目的を達成しようとするもの」と定義されるように、その中には工学システム、社会システムなど幅広い対象が含まれる。システム科学はシステムの目的を最も効果的に達成する方法を与えるもので、科学技術分野の技術者にとって基礎素養として欠くことの出来ない学問分野である。</p> <p>本科目では、初めに、システム構築などに関連する事項として科学技術者倫理の概要を講義し、続いてシステム科学の基本となる次の各種システム技法を中心に、その基本的な考え方およびその応用を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術倫理概論（第1－2週） 2. システム工学技法概論（第2－3週） 3. システム計画技法（第4－6週） <ol style="list-style-type: none"> 1) 予測技法 2) 構造化技法 3) 評価技法 4) スケジュール管理技法 4. 統計的解析技法（第7－8週） 5. モデリングとシミュレーション（第9－10週） 6. 最適化技法（第11－12週） 7. システムの信頼性（第13－14週） 8. 定期試験（第15週） 			
成績評価の方法	<p>定期試験、課題レポートおよび受講態度（講義への出席、レポート提出等）により総合的に評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：プリントを配布する。</p> <p>参考書：中村嘉平、浜岡尊他『新版システム工学通論』朝倉書店 2,940円</p>			
履修上の留意点	<p>「システム科学Ⅰ」を受講していること。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
システム科学ⅡC	必修（建築）	2	2	建築環境システム学科教員 （○学科長）
授業の目標	<p>人間生活と建築空間との対応を理解し、建築を企画・構成し、実現（設計、施工）していく過程において検討すべき事項を、システム科学的に思考することを目標とする。</p> <p>さらに、対応するシステム科学演習Cにより、模型制作や実測、建築モデル等の製作を通じて、建築計画および建築構造の基本的な考え方を理解する。</p>			
授業の概要・計画	<p>建築を実現していく過程において検討すべき事項を、以下に挙げるような、様々な視点から解説し、思考させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企画及び基本設計の進め方 建築実現のプロセスと計画、計画条件の調査及び整理、企画とコンセプト 2. 意匠的な検討の仕方 コンセプトと建築デザイン、機能と建築デザイン 3. 人間工学的な検討の仕方 行動生理と建築計画、空間と心理 4. 構造工学的な検討の仕方 力と骨組、空間構成とデザイン 5. 材料選択の仕方 構造・意匠と材料、視覚・触覚などへの影響 6. 環境工学的・環境心理学的な検討の仕方 建築物を取り巻く環境、環境の活用、空間と環境心理 			
成績評価の方法	<p>講義を踏まえたシステム科学演習Cでの課題成果、プレゼンテーションにより評価する。人間生活と建築空間との対応が理解できており、そのために必要な検討が様々な視点からされていることが単位修得の条件である。さらに、建築計画および建築構造の基本的な考え方の理解度により評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>主として配布資料による。</p> <p>参考書：日本建築学会編、『コンパクト建築設計資料集成』、丸善、¥5,040</p>			
履修上の留意点	<p>システム科学演習Cと対応した講義である。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
システム科学ⅡD	必修（経営）	2	2	三品 勉
授業の目標	3セメスター以降から本格的に学ぶ各専門科目を概説し、経営システム工学の体系を紹介する。またシステム科学Ⅰで学習した基本的な考え方・方法論が、経営の意思決定問題にどのように応用されるかについて、特に企業の企画・計画に関する諸問題を中心に平易に解説する。また現在は企業を取り巻く環境の変化が激しいが、システム工学的な対応の仕方はどのようなものであるかについても述べる。			
授業の概要・計画	<p>1. 経営システム工学の概要</p> <p>(1) 経営システム工学科で学ぶこと</p> <p>(2) 経営に関するシステム工学的アプローチについて</p> <p>(a) 基本的考え方・手順</p> <p>(b) 方法論</p> <p>(3) 経営意思決定問題とは何か</p> <p>対象とそのアプローチについて、企業各部門での具体例を挙げて説明</p> <p>(a) 企業運営資金・利益をだすということ</p> <p>(b) 企業のアウトプットとしての商品について</p> <p>(c) 設備投資について</p> <p>(d) 資材購入と製造について</p> <p>(e) 他企業との競争について</p> <p>(f) 経営計画について</p> <p>(g) その他</p> <p>2. 経営システム工学におけるパラダイム・シフトと今日的課題</p> <p>価値観、問題のとらえ方、定式化、問題の解き方に関する将来方向について</p> <p>(1) 企業の国際化と経営システムについて</p> <p>(2) コアコンピテンスとしての「ものづくり」について</p> <p>(3) ベンチャービジネスについて</p>			
成績評価の方法	出席状況、レポートその他、定期試験により評価する。			
テキスト・参考書等	テキスト：経営戦略のエンジニアリング・アプローチ 鈴木・三品・黒須著 日科技連 2004 ￥2,800			
履修上の留意点				
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
建築環境システム学概論	選択 (機械・電子・経営)	2	2	山田寛次、安原盛彦 小林 淳
授業の目標	建築学の中で建築、環境、システムがどのように関わっているかを空間、材料、構造、歴史などを通じて、概要を捉える。			
授業の概要・計画	<p>生活空間において、建築学がどのような役割を果たし、人間が環境にどのように対応してきたか、また今後も地球環境と人間社会との間にどのような建築的システムが可能であるかを、概説する。</p> <p>講義内容 建築計画、建築材料、建築構造の観点から下記の講義を実施する。</p> <p>(1) 人間が自然環境の中に居住空間を作り、さらには都市までを形成していった過程、更に建築空間の歴史的変遷を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築で表現するとは何か ・ 日本の建築空間の変遷とその見方 ・ 日本とヨーロッパの建築空間との違い <p>(2) 人間が自然環境の中からどのような素材を得て建築を作り上げていったかを概説すると共に、資源の有効利用、建築が環境へ与えるライフサイクル負荷について論じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な建築材料（仕上げ材料、材料構成） ・ 建築で使用する構造材料（コンクリート、木質材料、鉄鋼） ・ 建築におけるシステム、建築と環境問題 <p>(3) 様々な自然現象に対し、人間がどのような技術によって安全な生活空間を確保してきたかを概説し、今後の構造技術の可能性について論じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物と構造様式の進歩 ・ 構造物の力学的特徴 ・ 構造技術の可能性 			
成績評価の方法	定期試験、出席状況、レポートを総合的に判断する。			
テキスト・参考書等	<p>参考書：安原盛彦共著「建築概論」学芸出版社、3,000円＋税</p> <p>プリント：講義によってはプリントを使用する</p>			
履修上の留意点	物理学Ⅰ、線形代数、解析学Ⅰを履修していることが望ましい。			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
経営システム工学概論	選択 (機械・電子・建築)	4	2	○三品 勉、谷内宏行 嶋崎真仁
授業の目標	<p>企業経営とは何か、経営に係わる諸問題とは何かについて説明し、それらの問題を発見・解決する手段としての経営システム工学の考え方・方法論を述べる。企業内代表的部門の諸活動を取り上げ、部門の目的、関連する問題点、その解決方法等を具体的に解説する。また、全社に関わる意思決定としての経営戦略を、経営システム工学の枠内で捉える時の考え方を述べる。</p>			
授業の概要・計画	<p>1 企業の仕組みとその活動を理解する</p> <p>(1) 資金の管理と評価 企業体質評価 (三品) 財務諸表の構造と、それらから得られる情報を駆使した経営分析 (経理部 財務部)</p> <p>(2) 他社との競争を考える (三品) 経営戦略の策定 (企画部)</p> <p>(3) シーズからニーズへの価値の転換 (谷内) 製品企画 製品開発に必要なこと (研究所 製品開発部) [新製品開発発想 技術者倫理] 製品試作 量産に必要なこと (製品製造部) [生産システム トヨタ生産方式]</p> <p>(4) 有効性・効率性を追求した製造・営業活動と情報システムの活用 (嶋崎) 需要予測 (販売部) 在庫問題 (製造部 資材部) 品質管理 (品質管理部)</p> <p>2 経営システム工学の応用としての戦略的意思決定方法について理解する (三品)</p> <p>(実際には、ほとんどの経営問題は各部門にまたがっている。各部門の有機的なつながりにより、新しい価値が創造できることをよく理解すること。)</p>			
成績評価の方法	<p>出席状況、レポートその他、定期試験により評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参考書：鈴木、三品、黒須 『経営戦略のエンジニアリング・アプローチ』 日科技連、2004年、¥2,800。その他、必要に応じて指示する。</p>			
履修上の留意点	<p>特になし。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
解析学Ⅱ	必修(機械)	2	2	伊藤 伸
授業の目標	<p>1 変数関数の積分とその応用、および、2 変数関数の微分・積分法である偏微分と重積分に関する基礎的な概念を理解し、その解析手法を習得することを目的とする。1 変数関数を用いて図形の面積や曲線の長さなどを求めるための積分法を理解し、解析手法を習得する。また、現実の物理現象で取り扱うことが多い多変数関数の基礎的な取扱いの手法を、2 変数関数を通じて理解し、解析手法を習得する。</p>			
授業の概要・計画	<p>(授業の概要) 講義で取り扱う数学に関する基礎的な専門用語について、テキストと適宜配布する資料により説明・解説を行う。また、解析手法について例題を示し詳細に説明すると共に、演習問題を通して習得する。</p> <p>(授業の計画) 第1週：不定積分（不定積分） 第2週：不定積分（置換積分、部分積分） 第3週：いろいろな関数の不定積分（不定積分の例、分数式の積分） 第4週：いろいろな関数の不定積分（無理式の積分、$\sin x$、$\cos x$の分数式の積分） 第5週：定積分（定積分、置換積分・部分積分） 第6週：定積分（和の極限としての定積分）、定積分の応用（面積） 第7週：定積分の応用（体積） 第8週：定積分の応用（曲線の長さ） 第9週：定積分の応用（極座標、広義積分） 第10週：偏導関数（2変数関数、偏導関数） 第11週：偏導関数（2変数関数の平均値の定理）、偏導関数の応用（極大・極小） 第12週：偏導関数の応用（陰関数定理、条件付き極大・極小） 第13週：重積分（重積分） 第14週：重積分（極座標による重積分） 第15週：定期試験</p>			
成績評価の方法	<p>定期試験80%、演習（小テスト）20%を基準とし、総合的に判断して評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：田代嘉宏 著、『工科の数学 微分積分』森北出版 2,400円（税別） 参考書：適宜講義の中で紹介する。自分にあった参考書を図書館などで探すこと。</p>			
履修上の留意点	<p>受講する前に教科書や関連図書を読み、授業の計画に示した内容について疑問点を整理すること。また、講義終了後には、講義内容を確認し、式を自力で誘導できるように努力すること。さらに、疑問点があれば必ず質問すること。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
解析学Ⅱ	必修（電子）	2	2	高山正和
授業の目標	<p>解析学Ⅰに続いて多変数関数の微分法と積分法を扱う。多変数を用いることによって、現実の時空間を数学モデルとして取り扱うことができるようになる。解析学Ⅱにおいては、多変数関数の微分、積分に関する基礎的な概念と手法の習得を行い、初等的な関数に対する応用についても理解、利用ができるようになることを目標とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多変数関数 2. 微分係数 3. 合成関数の微分法 4. 高次微分係数 5. 極値問題 6. 陰関数定理 7. 条件付極値 8. 重積分 9. 変数変換 10. 線積分とグリーンンの定理 11. 体積・曲面積 12. 広義重積分 <p>講義は、基礎的な概念およびその性質を中心に展開していくが、それらを理解し、その理解を深化させるためには演習を繰り返すことが非常に大事である。</p>			
成績評価の方法	<p>定期試験によるが、出席、レポートの成績も考慮する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：小寺平治著 『テキスト微分積分』 共立出版 2003年 2,000円＋税 参考書：1. 寺田文行/坂田洵 共著 『演習と応用 微分積分』 サイエンス社 2000年 1,700円＋税 2. 石村園子著 『やさしく学べる微分積分』 共立出版 1999年 2,000円＋税</p>			
履修上の留意点	<p>多変数の微積分もその基礎は一変数の微積分にある。よって、解析学Ⅰで学んだ事柄をしっかり身につけておくことが肝要である。</p>			
備考	<p>講義外に演習授業の時間を用意している。単位認定とは無関係であるが、講義内容の理解を深めることや講義中に理解できなかった点、自己学習の上で生じた問題点などを解決することなどに利用して欲しい。</p>			

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
解析学Ⅱ	選択（建築）	2	2	奥野孝一
授業の目標	<p>解析学Ⅰに続いて、多変数関数の微分法と積分法を扱う。多変数を用いることによって、現実の時空間を数学モデルとして取り扱うことができるようになる。解析学Ⅱにおいては、多変数関数の微分、積分に関する基礎的な概念と手法の習得を行い、初等的な関数に対する応用についても理解、利用ができるようにすることを目標とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多変数関数 2. 微分係数 3. 合成関数の微分法 4. 高次微分係数 5. 極値問題 6. 陰関数定理 7. 条件つき極値 8. 重積分 9. 変数変換 10. 広義重積分 11. 体積・曲面積 12. 線積分とグリーンの定理 <p>講義は基礎的な概念およびその性質を中心に展開していくが、それらを理解し、その理解を深化させるためには演習を繰り返すことが非常に重要である。</p>			
成績評価の方法	<p>定期試験の結果を80%、出席状況および演習課題の結果を20%として評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：小寺平治著『テキスト微分積分』共立出版 2003年 2,100円 参考書：1. 寺田文行/坂田洵 共著『演習と応用 微分積分』サイエンス社 2000年 1,785円 2. 石村園子著『やさしく学べる微分積分』共立出版 1999年 2,100円</p>			
履修上の留意点	<p>多変数の微積分もその基礎は一変数の微積分にある。よって、解析学Ⅰで学んだ事柄をしっかりと身につけておくことが肝要である。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
解析学Ⅱ	選択（経営）	2	2	長南征二
授業の目標	<p>解析学Ⅰに続いて、1変数関数の積分法とその応用、および偏微分法（多変数関数の微分法）を扱い、積分法および偏微分法の基礎的な概念や基本的な技能を修得し、図形の面積や曲線の長さを求めるために積分法等を利用することが出来るようになることを目的とする。</p>			
授業の概要・計画	<p>1. 定積分 1・1 定積分とその性質 1・2 連続関数とくに初等関数の不定積分の計算 1・3 定積分の定義の拡張 2. 偏微分法 2・1 二変数の関数 2・2 偏微分法 2・3 Taylorの定理とその応用 2・4 陰関数 3. 平面曲線および空間曲線 3・1 直交座標の場合 3・2 極座標における諸公式 3・3 曲線の追跡と曲線群 3・4 空間曲線 4. 重積分 4・1 二重積分 4・2 広義積分 4・3 線積分 4・4 多重積分および重積分の応用</p>			
成績評価の方法	<p>提出レポートおよび筆記試験によって総合的に判断する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：「工学の数学 微分積分」（田代嘉宏著）森北出版 参考書：「大学で学ぶやさしい微分積分」（水田義弘著）サイエンス社</p>			
履修上の留意点	<p>講義は、解析学の基礎的な概念およびその性質を中心に展開していくが、それらを理解しさらに深化させるためには、日常的に復習と演習を繰り返すことが重要である。</p>			
備考				

授業科目名	必修・選択	開講セメスター	単位数	担当教員名
物理学 I	必修 (機械)	2	2	佐藤和人
授業の目標	<p>物理学 I では、物理学の一分野であり、また機械工学の基礎でもある「力学」を学習する。力学は、力を受けた物体がどのように運動するかを考える学問であり、すべての力学問題は、いくつかの基本法則を覚えておけば、後は比較的簡単な数学を使って解決される。従って、授業の目標は、論理的な推論によって問題解決する道筋を理解し、習得することにある。</p>			
授業の概要・計画	<p>教科書を使用して以下の項目を順次、講義するが、内容次第で複数週に渡ることもある。また講義内容の理解を調べるためのレポート提出がある。</p> <p>【講義項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の表し方：座標と変位 2. 速度と加速度：変位の導関数 3. 運動の法則：力と加速度 4. 単振動：調和振動子とエネルギー積分 5. 束縛運動：垂直抗力、抵抗力、張力 6. エネルギーと仕事：エネルギー保存則 7. 非慣性系での運動：慣性力、遠心力、コリオリの力 8. 衝突と 2 体問題：運動量保存則 9. 惑星の運動：万有引力と角運動量保存則 10. 剛体の力学の基礎：角運動量、力のモーメント、運動方程式 11. 剛体の平面運動：慣性モーメント 12. 自由空間の剛体系：回転ベクトル 13. 弾性体の力学 14. 流体の力学 			
成績評価の方法	<p>定期試験60%、提出レポート20%、授業中の学習態度20%として総合評価する。</p>			
テキスト・参考書等	<p>教科書：川村清著、『力学』、裳華房、1,900円＋税 参考書：青野修著、『力学演習』、サイエンス社、1,950円＋税</p>			
履修上の留意点	<p>高校で物理を習わなかった場合は、基礎物理学（同セメスター開講）も必ず履修すること。</p>			
備考				